

## 米里地区 地域づくり懇談会 開催概要

- 1 日時 平成30年7月31日（火）19:00～20:00
- 2 場所 米里地区公民館
- 3 出席者 地元出席者 13名  
市出席者 4名（深澤市長、尾室教育長、谷村農林水産部長、  
安本地域振興局長）



4 テーマ 今後の地域活性化に向けて取り組みたいことについて

### 5 概要

（地元）

米里地区は、旧米里地区と呼ばれる集落が8つあり、258戸、935人の住民がおり、1,000人を下回っている。雲山団地は昭和51年に宅地造成が始まり、昭和53年頃から人が住み始めた。ここには3つの町内会があり、住宅が690戸、マンションが300戸となっている。農村部は約260戸で団地が約1,000戸となり、全体では約1,260戸、人口は約3,700人である。

近年は町内会の加入状況が問題になっている。一戸建ては960棟建てっており、そのうち97%にあたる928戸は自治会に加入している。マンションでは子ども会の関係で14戸が加入している。そのため、全体では75%にあたる942戸が自治会に加入している状況である。世帯で考えると60%辺りと

なる。

人口の状況を10年前と比べると、農村部は150人ほど減っているのに対し、団地は39人しか減っていない。団地の人口があまり減っていない理由については、一度米里地区から出た人が戻るときに、団地の空き家を利用しているためである。そのため、地区もこれからはUターンやIターンを進めることや、空き家への呼び込みを進めていきたいと考えている。

米里地区は平成15年に今のまちづくり協議会と同じ組織を作り、全部の団体を統括していた。それ以来、地区の事業にはまちが一体となって取り組んでおり、年間で地区の人が3,000人ほど参加されている。

地区の要望事項についても、平成15年から継続管理するようにしており、今では大規模事業が10数件実現した状態である。各地区の要望についても、全体で200件ほど出し、ほとんど年次的に解決されている。

#### (市長あいさつ)

この地域づくり懇談会は2年に1回ということで、地域の課題や市政についてのご提案を聞き、限りなく市政に反映させていただくという趣旨で開催している。

今年度から地域づくり懇談会のやり方を変えさせてもらっている。以前は、あらかじめお聞きした地域の課題について担当部長がお答えするというものだったが、ざくばらんに意見交換をさせてもらい、その中で地域の課題や鳥取市政の進め方についての意見をいただきたいということで、少人数での会とさせていいただいている。またご意見があればお寄せいただきたい。

今日はあらかじめ地域の活性化について、米里地区の文化財の活用についてという話を聞いている。教育長も来ているのでそのあたりの意見交換もできたらと思う。

### テーマの背景

米里地区には、県東部で最古・最大といわれる2つの前方後円墳や、線刻壁画を持つ古墳をはじめとした、たくさんの史跡・古墳が残されているほか、日本きのこセンター、空山牧場、風力発電所、薬師如来札所の森福寺など多くの施設もあり、市街地の近くに位置しながら、貴重な歴史資産や自然環境に恵まれた地域となっている。

一方で、「米の里」として守り継がれた水田は高齢化・後継者不足で耕作者離れが進み、谷間の田畑は耕作不便や鳥獣被害のため放置され荒れ放題となっている。貴重な歴史資産等も草木で埋もれている。

## 米里地区の取り組み

平成17年に米里かるたを制作。平成25年には米里史を編纂し、さらに「米里史跡めぐり」と題したマップを制作。地区で配布し、認識を高めている。

大路山については平成26年から28年にかけて国の補助を受けて山道・山頂平地の整備を行い、桜や栗の木の植樹を実施。その後も年3、4回は草刈り等を行っている。毎年米里小学校の児童が社会見学で登っている。

史跡については、米里かるた制作以来、公民館事業として年2、3回、地区の方を対象に史跡めぐりを実施している。また、約5年前から小学校6年生を対象に、地域のガイドとともに徒歩で史跡を回っている。それ以外にも小学校へ地域の方が講師として出向き、米作りや災害といった地域の歴史の話をしている。現在ガイドが少ないため、地区に長く住んでいる方をお願いし、育成していくことを検討している。

平成28年からは「米里地区の将来を考える会」を結成。地域のことからについて継続して検討を行っている。

(司会)

これらは次世代に地域の誇りをつないでいこうという取り組み。私がコミュニティスクールで中学校に出向いた際、地元の史跡に誇りを持っているという生徒の発言があった。そういったものが根付いていくことが大切だと思う。

### ◆テーマ1 地区の遺跡・史跡等の保存・管理及び看板の設置等を行うための、各種補助制度等の有無及び活用策について

(市長)

米里地区には歴史的な史跡や資源がたくさんあると改めて認識した。ここには鳥取のあたりでは一番大きな古墳があり、昔は権力者がいたのではないかなと思う。

地域の皆さんが取り組んでいる草刈り等について、改めて感謝申し上げます。看板等の文字が見えづらくなっている、また、そこにアクセスする道路等も十分ではないというお話をいただいた。

歴史まちづくり法という、文化遺産や史跡の保全、観光への活用を目的とした法律がある。鳥取市でも歴史文化の基本構想を策定し、取り組みを進めていこうとしている。まだまだ十分な取り組みではないが、皆さんと一緒にこの歴史的な文化遺産を次世代に引き継ぎつつ、我々の時代でも活用に向けて取り組んでいくべきだと考えている。

一度に全部を整備することは難しいが、このようなすばらしい資産があることを、米里地区の皆さんはもとより、鳥取市全体で認識していかなければならない。

(教育長)

文化財や歴史文化の保存については、これから大きな市全体の構想を立てようというところである。

六部山の看板については新たに書き換えようと話を進めている。空山古墳については、県指定の文化財となっているため県に話を聞いたところ、地域での環境保全には感謝している、古墳の現状を確認して市の担当課とともに地元と話して今後の対応を考えたいとのことだった。また改めて市の文化財課から連絡させていただく。

(地元)

この文化財や地域資源の保全に取り組むと同時に、資源を整理して動線を引いて、老人クラブ等にアプローチして実際に歩いてもらいたい。道路の整備やトイレ、休憩所、食事の場所を考えながら1つの観光ルートのような動線を引いてやっていく。そのためには、地域資源の整理整頓を地元でしないといけないが、補助金はないのか。費用対効果ばかりを考えるのではなく、次の世代を育てていくことを最終的なねらいとしているので、ぜひ検討してもらいたい。

(司会)

地域としては保全活動や管理活動に対して補助金があると助かるが、今はないのか。

(市長)

教育委員会が歴史文化基本構想を3年かけて作っていく予定としている。全市的に歴史資産のすばらしさを共通理解してそれを守り、次の世代に継承していくことが大事。経済効果や財政効率を考えてということもあるが、これからの時代は効率だけでなく、そういうことに価値を見出して、活用していくことが大切になると私も思っている。支援制度についてはその中で検討してみてもいいと考えている。

(地元)

看板を作っても果たして人が来るのだろうかという思いもある。もっと身近に感じられるように、大きな古墳の下にキャンプ場を作るのもいいと思う。また、ここには菌<sup>きん</sup>茸<sup>じゆん</sup>研究所があるので、原木を切ってしいたけを植えて食べたりするのもいい。歴史的な古墳を残す、保存するということは重要だが、まず人が来なくてはならないと思う。

(市長)

キャンプ場も1つのアイデアだと思うが、古墳は実際なかなか分かりづら

い。鳥取西道路の整備時にも古墳が見つかったが、日常生活の中でみんなが認識できるかというところではない。ここ米里地区の古墳はとても大きいので、文化財的な価値も非常に高く、改めて認識してみることは大切だと思う。また、先人たちに思いを馳せる機会を作ることは有意義なことなので、そのような機会をもっと多く持てるようにしていくことが必要だろう。

(地元)

米里に48年住んでいるが、小学生の時に見て以来、古墳は見たことがない。国府町の梶山古墳を数年前に見たが、非常にきれいに整備されている。国指定の史跡なので、米里の古墳とは違うかもしれないが、モデルになるのではないか。

#### ◆テーマ2 地区の歴史資産や公的施設等を巡る周遊経路の整備及び、車の無免許者に対する足の確保等、公的支援制度の有無について

(地元)

全部いっぺんに、というのは難しいと思う。順次整備をしていってもらえればいいと思うので、検討してほしい。

(市長)

鳥取市は合併して範囲が大きく広がり、現在市道の合計距離は1,700km近くになっている。維持管理に経費がかかっており、新しい道路を作るのは難しいことをご理解いただきたい。道路や橋については、定期的にメンテナンスをして大切に使う時代になった。

道路の拡幅については、隣接する土地所有者から土地の無償提供があれば可能と思う。

バスについては公民館の事業で史跡を巡るというような形であれば、支援制度をうまく活用いただけるのではと思っている。

(地域振興局長)

公民館に登録している団体を対象に、上限5万円、補助率10/10で、1団体につき年1回使える補助制度がある。

(地元)

米里地区では以前から公民館委託事業を活用しながら史跡をめぐるイベントをしているが、古墳の整備や維持管理に対しての意欲を掻き立てるものになっていない。上限5万円だと差額を持ち出ししれないといけないので、厳しいものがある。

(地元)

春頃に久末のもう作っていない梨山の木を切った。その場所は古墳というだけあって眺めがよく、キャンプ地にもいいと思った。米里には古いものはたくさんあるが、新しいものはないため、何か人が来るような新しいものを作っていきたい。整備だけで終わったら人は来ない。アクションを起こさないと廃れていってしまう。

(地元)

他の地区ではサイクリングをしている。手軽に回れる順路で、史跡や文化遺産を自転車で回れば低コストで済み、参加者も好きな所を回ることができていいのではないかと。車で行く以外にも方法があると思う。

(地元)

地元の間が整備はするので、それを補助金なりで少しでも後押ししてもらいたい。支援があれば人が集まり、整備や管理を頑張っていく。

(司会)

ぜひ歴史文化の基本構想の中に補助等を取り入れてもらいたい。

(地元)

神社仏閣の支援もしてほしいが、政教分離でダメだといわれる。神社仏閣も大切な歴史資産だ。

(教育長)

神社仏閣の中でも文化財価値のあるものについては支援できる。歴史文化基本構想の中で支援の内容を考えた上で皆さんにお示しできたらと思っている。

補足だが、この地区には700くらいの古墳があり、県や市の指定を受けているものが5つある。

地元の方が自らやっていたら、市としても支援制度を考えていきたい。

(市長)

地元の皆さんが整備をされ、それを少し後押しするような制度をという素晴らしいご提案があった。鳥取市にはアダプトプログラムというものがあり、地元の皆さんが道路や公園を清掃や整備をされた場合、できる範囲の支援をさせていただいている。地元と市が一緒になってやっていくという制度であり、このようなイメージで各地域の文化財を保全していくような、鳥取市なりの新しい制度を考えてもいいのではと思う。

◆テーマ3 荒れ地や遊休農地等を、賃貸・無償・買収等により1か所に集中して整備し、新たな利用者に貸付等を行っている先進例及び法的制約・行政等、公的支援等の有無について

(農林水産部長)

鳥取市の農業者人口は厳しい状況にある。この地区でも、中山間地域等直接支払制度や多面的機能支払交付金等を通して、農地の保全に取り組んでいただいている。また、認定農業者等の担い手の方に農地を集積集約していくことに対して、農地中間管理事業等を使って支援を行っている。

米里では新規の就農者が2名、果樹園で頑張っておられる。事例を少し紹介すると、八頭町の隼では旧隼小学校に隼Lab. という拠点施設があり、IT企業やカフェが入り、人が動き出している。その中で「隼えにし」という株式会社を農家の方が立ち上げ、しいたけの原木のオーナー制度を行っている。オーナーの家族を呼んで収穫祭や、田植え体験をしている。そういった取り組みの中から人が交流をして新しいものを発見し、地域の中での活力が出てくる可能性があると考えている。

他に、日南町では水田のオーナー制度をやっている。個人向けではなく、企業向けの制度であることが特徴である。企業がお中元やお歳暮に送る米を作っており、現在100社ほどが参加している。この地域は非常に優秀な農家の方々が多くおられるので、そこに少しサポートすることで何か面白い展開ができるかもしれない。すぐに保全というのは難しい。まずは地域でどう守るかに取り組むことが大事だと思う。

(地元)

山沿いの田では、地権者はヒノキや杉を植えようと思っている。しかし、上に溜め池があることから大雨が降ると危険だ。

田にクレソンを植えるという案もある。小さなグループを作って土地を集約し、山沿いに植えてはと考えている。こちらもしっかりプログラムができてきたら支援をお願いしたい。また、販路についてはスーパーに卸すのではなく、クレソンの時期に市内の給食やホテル等で使ってもらえたらと考えている。

(地元)

私は子ども食堂の食材を個人で提供している。子ども食堂では高齢の方も食べられる食堂もあり、その輪が今後広がっていくと思っている。

もう農業は採算が合わないので、喜んでいただけの人に食材を提供するというように、ニュアンスを変えて活路を見出さないと農村に人は集まらない。興味のある人を呼び込む取り組みを考えないといけないと感じる。

（農林水産部長）

地区に人を呼び込む一つの方法として「とっとり共生の里」という事業がある。企業と集落または地区が5年間の協定を結び、農業施設の維持管理や文化・芸能の伝承などの活動をしている。

佐治では企業と5年間の協定を結び、地域の耕作放棄地を耕したり、大豆や大根等を作って各家庭に届けたりし、その交流の中で販売をしたりしている。また、企業のつながりを活かして海外からお客さんを連れてきたりなどもしている。東郷地区などでも企業と協定を結んで活動している。

補助金は1～3年目が60万円、4～5年目が30万円。米里地区でも、企業とこういった話ができれば、面白い取り組みになると思う。

（市長あいさつ）

地域の皆さんだけでは難しくなっていることも、取り組んでみたいと考える企業がある。一緒になってむらづくり、里づくりを進めていく事例もあるので、参考にしてもらいながら、米里地区でも特色を生かした取り組みをやってはどうかと思う。アイデアを出してもらえれば我々もお手伝いさせていただきたい。

今日いただいたことは持ち帰って1つひとつ具体的に取り組みたいと思っている。また、これからも皆さんのアイデアを市政に限りなく反映させていきたい。